保護者支援の理解経験	あった。評価できないと。かといって外せないからどうしようと今、悩んでいる。 これは幼稚園でも同じような状況である。幼稚園には子育て支援はないが、評価項目に入れてやってみたら、幼稚園は子育て支援がもともと入っていないですよねと反応があった。(210) 現場側の理解はもちろんあると思うが、評価表に子育て支援を入れたときに、どのように評価したらいいのかというところに随分悩まれているという状況があった。こちらとしては、学生が一生懸命それを理解しようとしてくれればいいというぐらいのところなのだが。その評価基準はどうなったらいいんですかと言われると、なかなか答えられなくて困っている。(211) 地域子育て支援になってくると、たまたまそういう行事があればいいが。その辺は実習は難しいのかなとは。やってほしいとは思っている。 養①：私の所も同じで、(207) 送迎のときに保育者が対応しているところを(202) できるだけ見て、学べるようにということは強調していきたいと思う。それから、(206) 連絡帳を読ませていただくというのも、ぜひお願いして、読んできなさいというようなことを言っている。実践的なところはやはりまだ実習ではできないので。そこで、(25) 4 年次の保育教育実践演習で保護者支援のロールプレイをやったり、それから、(26) 模擬保護者会をやったり、連絡帳の返事を書いてみるとか、そういった実践的なトレーニングを保育教育実践演習の中で、補う意味で、現場に出る前にやっているというような状態。	体験できる場合もあれば、できないことも多い。できない場合には、(204) 実習生の方からクラスの保育以外に地域の子育て支援、保護者支援でどのようなことをしているか質問して学んでいる。そういう学びをしてほしいので、(205) 実習日誌にはそのような書く欄を設け、そのことは自分から話を聞いてくるように指導をしている。 養③：(212) この問題はとても難しいと感じている。家庭のプライバシーに関わってくる難しさがある。子どもの家庭的背景、生育歴について、学生も想像したりすることはあるのだと思う。養成校としては、そのことがプライバシーの保護にあたいするものであるかは現場が判断することなので、(205) 学生へは聞くだけ聞いてみて学んでくるよう指導している。 (206) 連絡帳を見せていただくというようなことも大事だと思うが、学生は家庭のことを質問することはいけないことなのではないかと思っているような状況があってなかなか自分から言えていない。(213) 学生の守秘義務としては実習で聞いたこと、見たことを外に漏らしてはならないということであるが、そのことを学生は質問してはいけないと理解してしまっていることもあり難しさを感じている。 自身の学校ではないが、近年 SNS への書き込みなどが世間では問題なっているのでそのことは繰り返し指導をしている。 （守秘義務の現場での指導はどのようにしているか？） 保③：守秘義務に関しては、(221) いろんな子どもたちがいて、母親がいて、いろんな考え方もあるということも伝えつつ、「保育園の中で見たこと、聞いたことは外では話さないでください、(233) 実習に必要だから (220) 連絡帳も見せています」ということを伝えている。 保④：(224) 保育実習の中で保護者支援は本当に難しい。現場の方でも難しいことになる。家庭を伝える第一の手段が連絡帳なので、(232) 連絡帳をみても他では言わないよう、(234) ここだけであることを伝えている。
	養①：(235) まずすぐに自己評価をしている。(243) 振り返りシートと自己評価表を 2 部、記入させて。その後、(248) 自分で評価を低くしたかというようなことも含めて、グループで話をしてもらう。そして次への課題をどう考えるかという辺りを自分のイメージができるようにして、Ⅱへの準備という形で記録を残しておく。Ⅱの実習の初めにそれを本人に返して、そしてⅡの実習の事後指導を生かしてもらうようにつなげている。保育所実習Ⅰから保育所実習Ⅱに行くとき、そういうふうにしている。 それから、(254) 事後指導の中に、全教員が学生を 10 人ぐらい受け持っているので、反省会をその教員の元でやっている。グループ別にやってもらうことで、(258) 実習状況を細かいことまで知ることになる。うまくいったとか、	養③：(236) 事後指導では、実習担当者が実習園からの評価票が戻ってきた段階で、(238) 15 分から 20 分ほどの個別面談を実施し、(241) 実習の学びや (242) 自己課題を尋ねている。また、(240) モチベーションが下がっている学生がいた場合には、話をよく聞き、(244) 前向きに学んでいけるよう指導している。 (249) 報告会を実施している。報告会では一日時間を取って、様々な学年の学生が保育所実習のⅠとⅡ、施設、幼稚園実習も一緒にそれぞれ順番に発表している、また、(252) 先輩・後輩で情報を共有できる時間も作っている。(253) 学生同士の交流が日常では難しいので、学生はそのような場を喜んでいる印象がある。

事後指導のポイント	いかなかったとか、保育者に厳しく注意を受けたとか、そういういろいろなことを反省会で言うので。例えば教養の先生も保育の科目の先生も、みんな同じように情報を得ている。反省会をやったところで、一人一人のシートに教員が状況を書いて、実習センターに提出するというような方法を取っている。後で出てくる評価の問題だが、評価の特に低い学生については、別枠の記入表を用意していて、面談をして、細かく指導してもらうようにしている。 （面談のやり方は？） 学内指導の先生と言っているが、(255) 2 年生の幼稚園実習から 4 年生の実習までずっと同じ教員が受け持つ形になっている。ゼミと同じような考え方なので、すごく関係が深まる。担当者は大勢の学生に対応しているので、それよりも関係が密になっている。なので、まずは学内指導の先生に成績が悪い状態で、どういう指導をするかというのを。そして記録を書いてもらったものを、担当者が読んで、それでもちょっと心配な場合は呼び出しをして面談をする。 保②：(263) 実習生にどんな形でその事後指導をしたらいいかという学校側の考え方や方向性というのを知れたらいいというふうに思っている。この部分を指導してほしいとか、そういうものがあればいいなと思う。一応、反省会、ふり返り会みたいなものを実習園のほうでやっていて、そこは(262) 指摘とか評価ということではなくて、前向きな方法で指導はするようにはしている。どういう学生さんにどんな言い方ややり方をしたら伝わるのかなと思いながらいつもやっているので、(265) 養成校の先生たちと話しする機会を持ちたいなというふうには思っていた。 保①：(264) 園側もやはり評価というものの考え方をしっかり理解させてあげることが、職員に対しても難しかったりしている。やはり実習生も自分がどんな評価を受けるのかとか、そういう他者評価の部分で、自分の評価を決めてしまう視点がもしかしたらあるのかなと思って。先ほどからポートフォリオの自己評価にしても、その自己評価の仕方、評価はこういうふうに捉えるんだというところを、しっかりと伝えていただけるといいのかなというふうには思った。どうしても他者の評価を気にするというのがあるので。ここまで実習生側の話になっているが、1 年後の現場に出ていった職員というのは、さほど、何も変わらないので、多分同じ課題を抱えているのかなというふうにも思う。まず、評価のあり方、自己評価のあり方というところを。	養④：終わった開放感がどうしてもあるが、しっかり振り返り学んでほしいので事後指導には力を入れている。(256) 実習と実習（保育所→施設→幼稚園→保育所 or 施設→幼稚園）の間をしっかり繋いでいかないといけないと考えている。(257) 保育所実習が終わったらそれをどう施設実習につなげるか、ということを考えている。それが、自身の実践現場での課題としてつながることが多い。 (239) 個々の振り返りの中で、最初は挨拶ができていないとか、積極性がないとか、そのような課題が上がってくる。自分が持つ積極性とは何か、現場でよいと言われたこと、例えば「笑顔がよい」とか「丁寧だ」とかいわれたことを(246) どうプラスに生かすのか、そのようなことをどうつなげていくかということを考えている。 (245) 実習をつなげていくことができるようテキストも作成した。「実習振り返り曲線」という名前で、12 日間を折れ線グラフで、1 つはモチベーションと体調を記入する。良かったことと悪かったことを記入できるようにしている。実習にはよかった感情とダメだった感情がある。学生はダメだったことはよく覚えているが、良かったこともあるはずで、そこを伸ばしていくことが大事なので、その辺りを意識したワークシートになっている。(247) 実習の振り返りが次の実習の目標になっていくような事後指導を大事にしている。実習評価としては、学生が気になるところで、(235) 自己評価と (237) 大学の評価があるということを伝えている。 難しいが 2 学年が一緒になって(250) 実習の多様な経験を話すことで、(251) 学びを共有し深めていけるようにしている。 保④：よかった感情とだめだった感情という話がとても興味深かった。ダメなことの方が印象に残っているということがわかった。(259) 反省会を園でも開いているが、その時に(262) 実習生が前向きな形で終われるようにやっている。毎日書いている日誌などがどう生かされているかがとても気になっていたが、養成校で学びに繋がっているんだということがわかってよかった。 保③：そういうふうに事後指導をしていたということを聞くことができてよかった。 (260) 学生のよかったところをなるべく伝えるようにしているが、それでも自分でだめだったと、こちらが伝えたこと以上に挫折感があったりするのかということも今日の話でわかったので、次からの実習生にはもっと(261) 自信をもってかえってもらえるような反省会のあり方を考えていかなければならないと思った。
	保②：実習期間中に、(285) 学生が前向きに行っていたことはしっかり捉えておいて、評価をするというふうにはしている。緊張してできなかったこととか、そういうのはマイナスとしては捉えて評価につなげるということはしないようにはなっている。	保③：(289) 実習の評価は最後の最後で頭を悩ますところである。(290) どの職員に聞いてもなるべくよく書いてあげたいと言っている。・評価にはいろんな項目があるが、実習生であってまだ保育士ではないというところで、この先、(283) 実習評価を見て頑張ってもらいたいという思いで、(291) ついつい甘くつ

実習評価 実習評価	（評価をする上で困ったことは？） そういうときには、自分のところの文書で記録として書いたり、評価は評価で出すが、別のところでもちょっと話をしたりとか。(286) こういうところを頑張るともう少しよくなるよというような方向性で話をするようにしている。 保①：評価のところではどうしても保育者としての適性の部分もある。そこはやはりあるけれども、そこだけで終わってしまうのではなくて、その方がまさにどうかなというところ。評価で話をしているけれども、(287) 自分の課題をどのように捉えられているのか、そこはそこですみ分けて、2 つの視点で評価することが大事なのかなと思っている。	けてしまっているところがある。実習生を預かっていると、2 週間という短い期間であっても、かわいいと感情が生まれる。(282) この実習生に保育士になってもらいたいという思いや、また (283) 次のステップを頑張ってもらいたいという思いで実習評価をつけている。 どの養成校も評価内容に大きなずれはなく、同じような項目で評価票がとどいているので、とくにつけにくいというようなことはない。 保④：(285) 保育実習で経験したことを生かせるように評価は前向きに経験したことを生かせるように、前向きに捉えてもらえるような評価をするようにしている。(282)「どうか保育士になりますように」という思いを込めて評価している。一緒に保育ができたらいいな」と思って評価している。(288) コメント欄が小さな養成校があり、伝えきれないことがあり困っている。 (292) 実習生から学ぶことは多い。(293) 実習生からは新鮮な目で見られるので、こちらとしてもピリッとするところがある。 養③：(273) ５段階の評価票を採用している。評価には大きく２つの傾向があって、４を基準につけているものと、３を基準につけているものがある。(275) 結果的に、どの学生も同じような評価になってしまう。この学生がどうだったのかとか、他学生と比べてどうなのかというところは見えてこない大学として評価票を使いこなせていない。 (277) 評価票のコメントは楽しみにしている。　学生に一番響くのはコメントだと思う。ただ、(278) どちらにとっても負担かと思い、コメント欄は小さくしている。 養④：評価票については変えたばかりである。問題点は、(274) 学生が１，２，３，４，５という数字を見て、そこから次の実習につなげるということを思っていない状況があり、(276) 数字上の良かった、悪かったという判断になってしまうので、これをどうにか変えなければならないということになった。そこで実習園との連絡の中で、実習園が評価をするということは難しいという話があがっていて、どうしたらよいのかということを考えていた。実習ミニマムスタンダードでも評価票があるが、それと同様に (279) 本学でも態度から評価が入っている。あらためて態度から入るのはやめようという話もでた。ミニマムスタンダードでもあるように、(266) 次に生きるのが評価の目的であって、その評価で良し悪しを決めるわけではなく、どう次に生かせるかということを考えた評価票にしたいと思った。そもそも評価票を変更していなかったので、評価項目と実習の目標とがずれていることも起こっていたのでそれも含めて新しくすることとなった。 (280) 態度の部分では守秘義務の理解とか、(281) 保育士の職業倫理とからめたものにしようということなった。１，２，３，４，５という評価をやめて、非常に優れている、優れている、適切である、努力を要する、というような

		ものにした。さらに、「総合所見」という名前ではなくで、「優れていた点、期間中に成長や努力が見えた点、次への実習への課題」というタイトルに変更した。実際にどうかはまだ評価をしてもらっていないのでわからない。実習生には開示するということも園には伝えていて、(267) 次の実習につながるようなもの、(268) 実習生の課題はこれだということが伝わるものになるといいと思っている。 学生は(269) 実習中に日々の振り返りや反省会を行ってもらっていて、そこで丁寧に評価を受けたり課題を明確にしてもらっている。(270) こうした内容と評価票が連動したものになるようにしたいと思っている。 実習園からは、(271) 自分たちの評価が学生の実習の単位評価にすべてかかわってくることを危惧をされるので、そうではないということ、(272) 総合的な評価であるということをなるべく伝えるようにしている。
その他意見	養②：事前指導は一生懸命であるが、終わってしまうと、「終わった」というのが結構多い。教員もそうなっている。事前指導は他の先生方がやってくれているので、私は事後指導だけやりますと言ってやっている。とにかく保育者になるのが嫌になってほしくないので。震災の前ぐらいから、5～6 年ぐらい前から、ワールドカフェなど対話型のグループワークを入れて、ネガティヴな話は一切させないようにしている。まず、ちょっと嫌なことを言わせて、その後は、楽しかったこと、「先生これ、すごかったね」ということだけ散々話をさせると、「また実習に行きたくなった」となる。ちょっと難しいけれども、このような形を初めていいなと思っている。 短大なので、実習が終わるとすぐ就職という状況。10 月ぐらいに実習が終わって、この時期に内定をもらうと気が抜けて、あとは消化試合というか、早く終わらないかなというような感じになってしまうので。そうならないように、実習指導をやって、つなげるようにしようとは思っているがなかなか難しい。 （養成校と現場の実習指導の専門性と研修についてどう考えるか？） 保②：最近これについて、園長と話す機会がある。実習生を受け持つに当たって、どういうふうに指導していくかという指導を受けていない。年に 1 回やってきたもので指導するという感触でやっているので、(315) 研修の必要性はすごく大きいと思っている。園に勤めている保育者がみんな受けられると、そこに向かって実習生を受け入れて、次に育てるというほうにつながっていく。この研修の大切さが話し合いの中で出ている、大切なところだと思う。 保①：こういった(315) 研修があるということは大事だなと思っている。例えば失礼な話になってしまうかもしれないが私たち現場としても、養成校からしてもお互いに気を使うことで、実習生が中心に宙ぶらりんになってしまうような立ち位置の中にあるような感じがしている。いつも来る養成校の先生	（養成校と現場の実習指導の専門性と研修についてどう考えるか？） 保④：(315) 保育現場への実習指導の研修はあったらいいと思う。年間を通して実習生はたくさんくるが、(309) どう指導していいのか難しい。(310) 学生へ向けた実習の本はあるが、指導する側の保育者に向けた実習指導者の本がない。普段の保育には点数をつけることがないので、とても心苦しく思っている。ほんとうはダメだと思うが、おまけをつけて評価してしまうことがあるので、(312) 評価の観点のポイントがわかるとよい。 大学の授業を見させてもらったことがある。その際、子どもの映像を見ていて、(313) 現場の捉え方と学生の捉え方が違っていたことがわかった。指導を中心とする保育者が学生から離れすぎていて、少し錆びてきているように思うので、研修があったら是非、参加したいと思う。 保③：(315) 実習指導の研修には是非参加したいと思う。(311) 実習生の指導を専門的に学ぶ場を今持っていない。(314) 実習生が書いた日誌のコメントについても、どのようなコメント書いたらよいのかなど、含めて学ぶ場があったら本当に良いと思う。 養③：(305) 養成校の教員と現場の考えのズレがあるのだと思う。そのあたりを埋めていくことが大事と思っている。たとえば、(306) 養成校と現場の実習生を評価するポイントがずれていることがあるのだとおもう。そのようなところを(307) 一緒に意見交換、(308) 学べる機会があるといい。 養④：(294) 保育現場にいたが、実習指導をどうしたらよいかという(295) ノウハウはなく、(296) 自分が受けた実習の経験しかない中で、現場では実習指導をせざるを得ない状況がある。(297) 本来的に保育の仕事が面白いという所を指導していくには指導の質が大切で、(298) 現場の研修が必要と思う。 養成校でも教員同士の指導がそろわないという現状があった。(299) 養成校でも教員の指導の質をそろえたいと思う。それぞれ努力をしていると思う

その他 意見	方もすごく申し訳なさそうに話したりするので。これは社会全体として次の保育士を育てていくというところでは、大事なところだと思う。(316) **実習生をどう捉えるのかという、保育現場と養成校の共有する場が今ではなかったと思う**ので。そこで改めて、しっかりサポートしていくのもまた一つの仕事だと認識が生まれてくるといいのかなと。そこに実習生さん自身もなかなか自分の責任を理解しているのかというとできないところはあると思うので。(317) **その三者がしっかりとその責任感を持つというきっかけにしていくことはありがたいと思う**。 養②：現場のほうでも昔からやっている園では大体ご理解いただいているところが多い。(302) **新制度が始まってから、たくさん園が増えている**ので、そちらの方には出したくないなというのが申し訳ないけれども正直ある。でも、それでも機能はやはり保育園だから、(298) **現場のほうでもこういう研修を受ける機会がほしい**なと。ちょっと偉そうですけれども、思うところと。養成校のほうも、長くやっていると何となく分かってくるが、(303) **どんどん養成校の数が増えて、現場と同じように増えているので。やはりノウハウを持っていない学校というのがある**。新しく雇いましたとなると、そういう(300) **経験が全くない。少なくともメインで単位を出すような人とか、そういう人の準備支援を含めてある程度研修を受けて、自分のやっていることが正しいかどうか確認する機会は要る**んだろうなと思う。 養①：S 大学の場合は、創立 75 年ぐらいになって、実習園がもう定着しているんで。 逆に悩みとすれば、(304) **伝統的な指導方法、それがもうある程度固定している部分も正直あって**。だから、非常にしっかりと指導していて、そういう意味で余計な口を出さないほうがという状況もある。自信を持って指導をされている園が多くて。だけど逆に言えば例えば時系列を細かく書かせる園だとか、そういうところがなかなか変わっていかないという悩みがある。それで、3 年ぐらい前からそのことを何とかしたいと思い、去年実習園に呼びかけて、実習日誌の記録についての勉強会をしませんかと。そうしましたら集まって。 　やっぱり保育士さんたちは忙しくて、そういった勉強会というと夜とか、そういう時間帯になってしまうので。やっぱり園の主任さんとか、実習担当の先生方に呼びかけて、まずはその先生方から伝えていただけるように。今の養成校の状況、養成校の方針が今、ちょっと変化してきている、学生の様子もあるので、こういった指導に少しスライドしていっていると、そういう状況を伝えながら、勉強を一緒にしていきましょうという形の姿勢で呼びかけたら、非常に熱心参加していただけた。何回かやる中で、「先生、分かりました、時系列がよく書ける子は、時系列は要らないですね」と言ってた。それは、ご自分で感じたんだと思う。時系列が書ける子は当然、エピソードも	が、やはり難しい。各養成校の特色はあるけれども、(301) **求めるところの本質はここだということが揃ってくることは重要なこと**だと思う。

	書けると。だから、その学生によって、指導の内容を変えればいいんだというふうに。養成校じゃなくて、実習園側からそういうご意見をいただいて、とても勉強になった。 　現場の先生方が実感してご自分の指導をこういうふうにしたいという思いになられることが大事じゃないかなというふうに思ったので、**養成校が一方的にこうやってくださいというやり方はもう、昔のやり方で、これからはそうやって協働してやって、学生にとっていい実習になるようにと思った。** 　とりあえず実習担当の教員が知る必要があるので、実習担当者全員、助教さんも含めて、そういった勉強会に参加しましょうということで呼びかけている。それ以外の先生までは。	
有識者 コメント	有A：幾つかポイントがあると思う。 　実習の種類が(318)**保育実習Ⅰ、Ⅱがあって、施設実習があって、幼稚園があって、このトータルに実習全体を見通しながら、描きながら、そして学生が段階を追って成長をしていく**、一つ一つの実習が次の実習につながっていく。養①先生がおっしゃったように、施設実習があったことで、そこで多くの変化があったということは大変示唆に富んでいる。そういった意味では(319)**施設実習や幼稚園実習等も含めて、どういう順番でどういう成長の過程を描いていくかということを、教員側もそして施設側も共有できればいいというふうに思った**。やはり保育はプロセスが大切で、保育を作り出していくプロセスと体験してほしいと保①先生がおっしゃった、そういったところも含めて、(320)**この成長のプロセスをどういうふうに確認したり、可視化したりしていくかというところが大きな課題だというふうに全体的なこととして思った**。 　例えば実習Ⅰと実習Ⅱの(321)**実習日誌の様式があまり変わらない**。がちっと作り過ぎると柔軟性に欠けてしまうけれども、でも(323)**その段階によって書く様式も含めて、変わってくる**だろうなということは、**実習日誌の様式も含めた内容というのを、どのように変わっていくかということを再考したほうがいい**。実習ⅠとⅡの様式を変えるということも含めて、考える必要がある。加えて、施設実習、幼稚園実習、それぞれの実習日誌の様式はそれぞれの担当者がそれぞれに作って、これでいいと思ってやっている現状もある。(322)**生によって指導が異なる、あるいは異なるというところも認めていくというかという問題もある**。 　学生の実習評価にはたくさんの項目あるが、保育園側の評価とか、教員側の評価がない。なくはないのだが。自己評価としてはあるけれども、そういった項目としてはない。(324)**評価の根本的な捉え方というか、考え方の見直しをしなければならないと思う**。成績を付けて、AとかBとかCとか決めつけるような評価ではなく、本来の評価というのは、どういうことを求めて、	（有B：養成校と実習園の意見交換の場は持っているか？） 養③：今年はじめて、学生の実習報告会の時にお一人園の先生をお呼びすることができた。養成校と実習園の意見交換の場はこれからの大きな課題である。今は、訪問指導の際に、話をすることが唯一のつながりとなっているのが実情である。 養④：実習の連絡会というのを、保育所、施設、幼稚園と３つの実習毎に、毎年実施しているが、結構な労力である。その内容は、「お願いします」とか「就職を」というような話ではなく、学生の話であるとか、オリエンテーションについてとか、自己課題につてなど、つっこんだ話ができるよう具体的なテーマをもって実施するようにしている。 保③：養成校から案内をいただいているが、時間をつくって出向いて話をすることができていないので申し訳ないと思っている。 保④：自分の立場が昨年まで副主任、現在主任であるが、養成校とのかかわりは園長が担当しており、現場の方では養成校と関わりがないのが実情、養成校に関してはわからないことだらけである。 有B：第一に感じたことは、対話が必要であることである。対話が必要だが、難しいと思うのは、(339)**現実には実習園と養成校それぞれの多様性がある**ことである。どちらも一対多であう。(338)**養成校は複数の園へ実習を依頼し、その複数の実習園にどのように対応すればよいのか、なかなか難しい問題を抱えている。一方、実習園は複数の養成校から実習生を受け入れている状況があり、名前が一緒でも異なった内容の実習を受けるということがある**。(337)**養成校、実習園の両者の間にも対話が必要であるし、認識のズレがある。**それだけでなく、(336)**養成校間のズレもあり、その間も対話ができていない。実習**